

あ と が き

学習指導要領の全面実施となって2年目となる本年度、本校では研究主題を「未来に生きて働く資質・能力の育成（4年次）～子どもが自己調整を行う場面を生む『しかけ』～」と定め、研究を進めてまいりました。

本研究主題のもと3年次となる昨年度、探究の質を高める授業づくりの「しかけ」と評価の在り方については、一定の成果を収めることができました。しかし、学習指導要領における評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」の具体である「粘り強さ」や「学習の調整」等への教師の取組が不十分であったことや、自己との対話の具体としての「粘り強さ」や「学習の調整」を視野に入れた支援を教師が行う必要があったことが課題として残りました。それらを踏まえ、本年度は、探究の質を高める主体が子どもであることをより強調した研究を進めるため、子ども自らが探究の質を高める「自己調整」を促す「しかけ」の研究に力点を置いて進めてまいりました。

本年度、研究の一端をみなさまにご覧いただく機会として、「複式授業研究会」「教育研究発表会」「ICT活用授業研究会」を開催させていただきました。また、研究広報誌「LIVE 創 REATOR」の発刊もいたしました。

私たちの実践研究に対しましては、多くの先生方にご指導、ご助言いただくことができたこと、心より御礼申し上げます。本年度もオンラインではありましたが、國學院大學教授 田村学先生には、貴重なご指導、ご助言を賜りました。田村先生には、「探究」と「省察」にスポットを当てた研究は時代の最先端であること、各探究のプロセスごとに知識の活用・発揮を重視したカリキュラム・デザインの方法は他で類を見ないことなどの評価をいただくと同時に、課題として「学ぶ内容に関する調整」の更なる研究が必要であるにご指摘をいただきました。今後、これらの成果を生かし課題を解決するために日々の実践を通じた研究を深め、子どもの学びの姿で立証していきたいと考えています。

今回、実践を紀要としてまとめることで、子どもに育まれた力を子どもの姿で検証したいと考えています。真摯に誠実に、職員一同取り組んでまいりましたが、まだまだ未熟で拙いものでもあります。今日まで、大勢の皆様からいただいたご意見・ご指導を糧に、今後も研究を進めていく所存です。多くの方々にご高覧賜り、ご教示、ご批正いただければ幸いに存じます。

副校長 辻本 和孝